

SUNS を使った留学生に対する日本語指導の可能性

上 條 厚

1 始めに

外国人留学生に対する SUNS を使った日本語の授業は、うまく行えるかどうか。それを探るための試みとして、実験授業を1998年8月に行った。そのことについて述べる。

本学には1998年5月1日現在、290名の外国人留学生が在籍している。その人たちの日本語能力は高水準から低水準までさまざまであり、中には日本語の学習を必要とする者も多い。

本学で現在行っている日本語の授業は、単位が与えられる講義としては、共通教育センターで入学したばかりの学部生に対して行うものがあるが、そこで対象となるのは学部生であり、日本語能力は上級の人たちである。それ以外の日本語の授業としては課外補講を行っており、それは初級もしくは中級の者を対象として、松本・伊那・上田・長野の各地区において行っている。そこで開講しているのは、松本で、初級コースと中級コース、伊那で、初級コース、上田で、入門コースと初級コース、長野で、入門コースと初級コースであるが、それぞれの授業は、週当たり、1回2時間ずつ、2回の開講となっている。初級・中級の日本語学習として、これでは十分と言えない。もっとコマ数がほしいところである。

本学における日本語教育は、現在よりも充実することが必要である。充実はいろんな方面から行うべきであるが、SUNS の使用を検討するのも一方法である。本学の各地区に日本語学習を必要とする学生がいる。SUNS を使用して効果が上がるならば、それを活用すべきである。今回の実験授業は、SUNS を日本語教育にうまく使えるかどうか検討するために行った。

なお、これは留学生センター運営委員会の議を経た上で立案し、行ったものである。

2 実験授業の内容と実施結果

日本語（外国語としての日本語）に限らず外国語の授業は、初級段階では遠隔授業よりも、授業者と学習者が直接向かい合った授業の方がよいであろう。外国語の初級段階での遠隔授業には、相当な不効率が予想される。それとても実施の可否について検討はすべきであろうが、まず第一には中級以上について考えるべきである。中級以上とはすなわち中級と上級であるが、上級段階の人は日本語学習が差し迫った問題であるわけではない。そこで今回の実験授業は、中級段階の学生を対象とするものと考えて行った。（なお日本語教育での初級・中級・上級の分け方は、一般的目安として、初級は学習時間が0ないし300時間程度まで、中級はその後の400時間程度、上級はそれ以上である）

実験授業は次のような要領で行った。

実施日は、1998年8月24日(月)、25日(火)、27日(木)、28日(金)の4日間。(各学部
に夏休みと集中講義の日程を問い合わせ、集中講義に重ならないようにした)

実施時間帯は、毎回、午前9時～11時。

授業者は筆者。松本の共通教育62番教室で授業を行い、SUNSで各学部と結ぶ。

使用教材は、読解用の教材を筆者が作成した。内容は門前町・城下町等の発生について、
長野県内の町を主な事例として述べたもの。

学生への連絡は掲示をもって行った。これが実験授業であることを断った。申し込み
希望者には各学部(研究科)の担当事務から教材を渡してもらった。学生は教材の内容
を見て、自分にそれがふさわしいかどうかを判断し、その上で申し込むこととした。

以上のようにした結果、授業開始時での申込者数は次のとおりであった。実験授業として
成功させるためには、ある程度の出席人数を確保することが必要である。これだけの人数と
できたことには事務の協力が大きい。ほとんどが大学院生であった。(以下、研究科を含め、
「学部」で代表させておく)

教育学部	5	理学部	1	医学部	2
工学部	4	農学部	7	繊維学部	5

上記以外に問い合わせが、人文学部・医学部・農学部から、各1名ずつあった。

次に実施した結果について述べる。

第1日目

共通教育62番教室で授業を始めようとしたが、そこから繊維学部へ音声が伝わらな
かった。(理由は不明)それで旭会館遠隔小会議室に場所を変えたが、繊維学部との間の
音声は、非常に小さかった。それでも授業は行った。

第2日目

繊維学部との間は前日と同じ状態であった。繊維学部を抜きにして、共通教育62番教
室から授業を行った。繊維学部の学生には、3日目以後は来ても来なくてもよいと伝え
た。(3日目以後、修復されていたかどうか分からないが、学生は来なかった)松本地
区の学生はだれも来なかった。(松本地区の学生が出席したのは1日目だけであった)

第3日目・第4日目

農学部が定期点検のため停電であった。教育学部と工学部のみが授業の対象となった。

4日間の内、3日以上出席者は、教育学部、3名、工学部、4名である。

以上のような状態であった。定期点検と重なったことは不手際であった。今後、常設の授
業がない時期に実施する場合には、こうしたことも考慮しなければならない。また今回の結
果が示すように、遠隔授業は機材をうまく使えるかどうかにか成否がかかっている。このよ
うなわけで、4日間連続して対象とできた学部は少なくなってしまうが、実験としての成果
は得ることができた。

授業の内容について述べておく。授業の主たる柱としたのは、・教材本文の解説 ・読む
練習 ・本文に出て来る表現を使った作文練習 である。学生からの質問は、あれば適宜受

表一 1 8.24/25/27/28 日本語実験授業終了後アンケート

		1998. 8. 28実施	
		回答者 6 (教育 3 工 3)	
		太数字は回答数	
1. SUNSの授業はうまく学習ができるか。		6. 教材(本文)を読んで収穫があったか。	
1) うまくできる	1	1) あった	2
2) 比較的うまくできる	5	2) 比較的あった	4
3) どちらとも言えない		3) どうとも言えない	
4) あまりうまくできない		4) あまりなかった	
5) うまくできない		5) なかった	
2. 発言はしやすいか。		7. 例文作成練習をして収穫があったか。	
1) しやすい	5	1) あった	3
2) 比較的しやすい	1	2) 比較的あった	3
3) どちらとも言えない		3) どうとも言えない	
4) あまりしやすくない		4) あまりなかった	
5) しやすくない		5) なかった	
3. 教官の説明は(全体として)分かりやすかったか。		8. 歴史を教材としているが、これは良いか。	
1) 分かりやすかった	4	1) 良い	4
2) 比較的分かりやすかった	2	2) 比較的良い	2
3) 普通		3) どちらとも言えない	
4) あまり分かりやすくなかった		4) あまり良くない	
5) 分かりやすくなかった		5) 良くない	
4. 教材(本文)の程度はどうだったか。		9. 今回の授業の満足度はどのくらいか。	
1) やさしすぎた	1	1) 80%以上	1
2) 比較的やさしかった	5	2) 60~79%	4
3) ちょうどよかった		3) 50%前後	1
4) 比較的むずかしかった		4) 21~40%	
5) むずかしかった		5) 20%以下	
5. 例文作成練習の程度は(全体として)どうだったか。		10. SUNSを使う日本語授業をしてほしいか。	
1) やさしすぎた		1) してほしい	3
2) 比較的やさしかった	5	2) どちらかと言えばほしい	3
3) ちょうどよかった	1	3) どうとも言えない	
4) 比較的むずかしかった		4) どちらかと言えばしない方がよい	
5) むずかしかった		5) しない方がよい	

け付け、また質問の時間も設けた。

3 終了後のアンケート結果

授業の4日目の最後に、この実験授業についてのアンケートを行った。4日目の出席者は、教育学部、3名、工学部、3名。回答者も同数。アンケートの内容については、表一1のとおり。実施方法は、アンケートの項目毎に画面を相手側に送り、答えが1)~5)のいずれであるか考えさせてから、学部毎にそれぞれの人数を報告させるというやり方であった。

アンケートの結果について見る。

1. について。SUNSの授業に関して、「うまくできる」「比較的うまくできる」のいずれかに全員が答えているので、良かったと言えよう。2. について。学生が発言しやすいか

どうかは重要なことである。授業が授業者からの一方通行になっては良いものとならないが、特に日本語の授業ではそのことが言える。回答は「しやすい」「比較的しやすい」のいずれかに全員が答えているので、良かったと言えよう。3. について。SUNS を通しての説明がうまくいくかどうか、重要な点である。回答は皆「分かりやすい」の方になっている。

4. と6. について。教材本文については「やさしい」の方で答えているが、教材を読んだ後の収穫は「あった」の方としている。5. と7. について。例文作成練習について「やさしかった」とする者が多いが、収穫は皆「あった」の方としている。8. について。前述のように、教材は門前町・城下町等の発生について書いたものである。歴史を題材としたのは、日本理解のためにそれが適当と考えたからである。ただし学生の側には好みの違いが考えられる。回答では全員が「良い」の方で答えているから、今回についてはこれで良かったであろう。

9. について。満足度はあまり良いと言えないが、SUNS を使った初回としては、この程度でもしかたないであろう。10. について。SUNS を使う日本語授業は、皆が「してほしい」の方で答えている。

このアンケート結果に基づいて見るならば、今回の実験授業は比較的良くできたと言える。今後 SUNS を使った日本語授業を行えば、うまくいきそうである。

4 授業の項目別分析

次に今回の授業を別の観点から分析する。

実験授業の3日目と4日目の分をビデオに収録した。そのビデオテープに依って分析する。授業者がしゃべる等の行動を、どういうことについてどのくらいしているか、学習者がどの程度発言しているか等を、見ることにする。この2日間のビデオの内、4日目の方はアンケートに時間をとっており、授業の分析にはあまり適当でないので、3日目（8月27日）の分だけを使う。その日の出席者は、教育学部2名、工学部4名、計6名である。

分析のために、授業者と学習者の動きを項目に分けて考えた。その項目毎に費やされた時間を見る。項目は次に示すとおりである。以下に説明する。実際に話されたものを例として挙げる。以下で（授）は授業者、（学）は学習者を示す。

・指示一般

授業者が一般的指示としてするものである。

（授）それでは時間になりましたから、始めることにします。

・本文説明

授業者が本文を読み、その後本文の内容を解説するものである。

（授）＜本文を読んだ後＞ ここまでの説明を簡単にしましょう。

・説明一般

授業者が本文から大分離れて説明をするものである。後出の「作文」「学習者回答」の後、学習者の回答に関連していろいろ長く説明することがあるが、そういうものもここに入れる。

（授）この「～ために」というのは何回も出ていますが、これは目的を表すものですね。

・朗読練習

授業者が本文を短く切って読んで、その後、授業者が読んだのと同じ部分を学習者に読ませるものである。(例、略)

- 作文指示

授業者が学習者に短文の作文をさせる指示、および学習者が答えたときの授業者の応答である。(例は次の「作文」の後に)

- 作文

学習者が短文の作文をして答えるものである。

(授) ここで皆さんに練習してもらいたと思います。例文を作ってください。

(学) 中国には万里の長城という立派な建物があります。

(授) はい。今のね、わたしが直しますよ。(学生の文の「建物」が不適当だから直す)

- 授業者質問

授業者がする質問、および学習者が答えたときの授業者の応答である。(例は次の「学習者回答」の後に)

- 学習者回答

学習者が質問に答えるものである。

(授) 「信大全校」と言ったらどういう意味になるでしょうか。

(学) 信州大学の全体。

(授) そうですね。

- 授業者回答

学習者からの質問に授業者が回答するものである。(例は次の「学習者質問」の後に)

- 学習者質問

学習者が授業者に質問するものである。

(学) 教育学部ですけれども、上から5行目のところの……。

(授) 本文で「全国に有名」となっていますが、これを「全国で有名」としてよいかという質問ですね。

これらの項目は授業の間に何回も出現しているわけであるが、一つひとつ時間を計ってから集計する。授業の間にはしゃべっている時間だけでなく、しゃべらないで行動をする部分もある。板書の時間、テレビカメラを黒板に合わせる時間などがそれである。これらはしゃべってなくても上記項目の一部分であるときには、それぞれに入れる。学生に質問をして答えを待つときには、沈黙の時間ができることがある。沈黙は短い場合には上記項目のいずれかに入れ、長い場合にはどこにも入れない(集計から省く)ことにする。授業に入る前に準備段階として、機材が正常に作動しているかどうか相手側に確認するなどの作業がある。これは授業そのものではないので、集計から省く。

こうして項目毎に集計した結果を示したのが、表—2における左側の数字である。いずれの項目にも入らない時間があるので、総計は120分にならない。総計に対して各項目毎、百分率を出す。この表において、左半分は授業者の行動、右半分は学習者の行動である。「朗読練習」は授業者と学習者の両方が同時に関わるので、中間に置く。学習者の行動については発言回数を記す。

このSUNSを使った実験授業についての集計結果を、普段の日本語授業（以下、「一般授業」と呼ぶことにする）と比較してみる。筆者は、共通教育センターの日本語の授業を担当している。それは「日本語（読解中心）」と「日本語（表現中心）」であるが、「日本語（読解中心）」の方が今回の実験授業に近い授業形態なので、それをビデオに収録して比較する。ビデオ収録は10月23日（木）に行った。時限は1時限である。その時間の出席者は15名であり、いずれも学部の1年生である。この1コマ分を、実験授業のビデオと同じように、項目分けして時間を集計した。その結果を示したのが、表-2における右側の数字である。実験授業の方と同じく、いずれの項目にも入らない時間があるので、総計は90分にならない。総計に対して各項目毎、百分率を出す。

表-2 8.27実験授業と10.23一般授業の項目別集計

2つ並んだ数字は、左 実験授業、右 一般授業
下段()内は、それぞれの総計に対する百分率
学習者の(～回)は、発言回数

授 業 者			学 習 者		
指示一般	1' 59" (1.8)	2' 16" (2.7)			
本文説明	29' 51" (26.9)	39' 18" (47.0)			
説明一般	27' 13" (24.5)	21' 52" (26.2)			
朗読練習	16' 51" (15.2)		15' 42" (18.8)		
作文指示	16' 29" (14.8)	1' 08" (1.4)	作 文	3' 20" (3.0) (17回)	0' 04" (0.1) (2回)
授業者質問	5' 27" (4.9)	0' 34" (0.7)	学習者回答	1' 37" (1.5) (8回)	1' 11" (1.4) (14回)
授業者回答	6' 35" (5.9)	1' 01" (1.2)	学習者質問	1' 41" (1.5) (4回)	0' 29" (0.6) (5回)
総 計	111' 03" (100.0)		83' 35" (100.0)		

5 集計結果の分析

以上の集計結果に基づいて考える。実験授業と、ここに例として出した一般授業を比較する上で、断っておくべきことがある。実験授業は、十分な準備をして、1回毎の授業がうまくまとまるように考えて行った。授業で行いたい各種のことを、1回毎の授業にできるだけ多く取り入れている。それに対し一般授業は、年間計画の中で継続して行うことを前提としており、1回毎の授業にいろいろなことを多く取り入れているとは限らない。そうしたことが集計結果に表れているが、そうした違いを考慮して見ていただきたい。

まず実験授業の結果を見る。授業者の本文説明と説明一般が最も多くなっている。両者とも全体の4分の1くらいの長さである。これらの時間は学習者はただ聞いているだけであり、

受け身の時間であるが、長くなってもしかたないであろう。本文説明の方は授業の中心となることであるから、必然的に長くなる。しかし最もつまらなくなりがちな部分である。それで本文説明以外に、できるだけ興味深いことについて説明をしようと考えた。その時間は説明一般に入るが、説明一般は相当に多くなっており、良い結果と言えよう。

朗読練習は全体の15%強になっている。これは学習者に読ませるものであり、受け身にさせないものである。この程度練習できればよいであろう。

作文指示と授業者質問は、学習者に向かって働きかけるものであり、これも学習者を受け身にさせないものである。2つ合計して20%近くとなっている。この時間がこの程度に多いのは良いことである。授業者回答も大分多い。学生からの質問は、あれば適宜受け付けるが、質問時間も特別に設けたために、これだけになっている。

授業者のしゃべる（もしくはしゃべらないで行動する）時間に対して、学習者の発言時間は、集計してみると非常に短い。3つの項目を合計しても6.0%である。しかし時間は短いとしても、回数は比較的多い。作文では17回となっている。この時間の出席者が6名なので、1人当たり平均3回近いことになる。他の項目も、満足できるほどの回数である。このように学習者の発言が多くなるようにできたことは、良かったと言えよう。

次に一般授業と比較しながら見てみる。一般授業は本文説明が一番多く、全体の半分近くを占めている。一般的に本文説明は長くなるが、全体の半分まで達するのは、長すぎるように思う。次に多くなっているのは説明一般である。本文説明と説明一般とについて、実験授業と一般授業を比べると、本文説明では実験授業の方が良い結果になっていると言える。説明一般ではどちらも同じ程度である。

朗読練習は一般授業の方が多くなっている。これは一般授業の方が行いやすいことだから、こうなったと考えられる。この程度でどちらも妥当な時間と言えよう。

一般授業では作文に費やしている時間が少ない。その時々によって違うが、この授業は特に少なかった。

一般授業の授業者質問を見ると、非常に短くなっているが、これについて説明しておく。SUNSの授業では学習者への質問は、これから質問をすると宣言してから始める。それに対し一般授業ではそうはしないで、本文説明や他のことをしている時に、適宜質問をすることが多い。そのために、授業者質問として集計される時間が少なくなるのである。学習者回答の方では、一般授業は実験授業と同じくらいの比率になっている。これについて時間と発言回数を見ると、実験授業は1分37秒で8回、一般授業は1分11秒で14回である。一般授業の方が回数の割合が高くなっている。授業者と学習者が直接向かい合っている授業だから、発言も回数多くすることができると言える。

次に授業者回答と学習者質問についてであるが、一般授業では学習者からの質問を受け付ける時間は、特別に設定していない。質問がある時に適宜受け付けている。この授業では時間が少なくなっている。学習者質問の時間と発言回数を見ると、実験授業は1分41秒で4回であり、1回の発言に平均25秒強かかっているが、一般授業は29秒で5回であり、1回の発言は平均6秒弱である。SUNSを通した質問は時間がかかることが、これではっきり分かる。一般授業ではわずかの時間で質問がなされている。

以上、項目別に見た。実験授業は各項目に適切な時間が費やされていると言える。この結

果は授業者としても満足できるものである。学習者の発言しやすさについては、SUNSの授業では一般授業に及ばないものがある。それはSUNSで授業をするときに十分配慮すべきことである。

6 終わりに

この稿ではSUNSを使った日本語の実験授業について、まずその実施とアンケートについて述べ、次に項目分けした分析の結果について述べた。そのどちらの結果からも、今回の実験授業は比較的良好にできたと判断される。

SUNSによる日本語授業は可能であることが示された。常設で開講する方向にこれから進むべきだと言えよう。日本語能力を高めたいと願っている外国人留学生のために、できる限り多くの機会を提供すべきである。

参考文献

- 清水 明 1997 「マルチメディアと高等教育」
『信州大学教育システム研究開発センター紀要』第3号
- 大下眞二郎 1997 「アメリカにおける遠隔教育の視察報告」
『信州大学教育システム研究開発センター紀要』第3号
- 山沢清人 1997 「SUNSを利用した遠隔講義実施例」
『信州大学教育システム研究開発センター紀要』第3号
- 田原徳夫・山沢清人・石田 汎 1996 「SUNSと学内LANを用いた遠隔講義」
『信州大学教育システム研究開発センター紀要』第1号
- 守 一雄・大藪 泰・野村彰夫・大下眞二郎 1991 「信州大学画像情報ネットワークによる遠隔講義とその評価 (2): 受講生アンケートの分析」
『信州大学教育学部紀要』第72号
- 守 一雄・野村彰夫 1990 「信州大学画像情報ネットワークシステムを用いた遠隔講義の効果: 「生」講義との比較による講義内容の理解度評価」
『信州大学教育学部紀要』第71号